

クリンテートFX-UVの 効果確認試験

JAびほろ

平岡 敏幸



①試験品(クリンテートFXUV)2016.3.2撮影



②慣行品(Eコート)2016.3.2撮影



③試験品(クリンテートFXUV)2016.9.9撮影



④慣行品(Eコート)2016.9.9撮影



⑤試験品(クリンテートFXUV)2016.11.16撮影



⑥慣行品(Eコート)2016.11.16撮影

試験目的

紫外線カットフィルムにより、ネギアザミウマ類・斑点病の発生率を抑え、総合的防除の観点から、コスト低減や労力軽減を目指す。

試験作物 及び品種

アスパラ(ハウス立茎)
※試験:10年目の株、慣行:9年目の株

試験資材 及び数量(規格)

ハウス⑥ クリンテートFX-UV(天井:厚0.1mm×幅770cm×長55m)
クリンテートGM(妻:厚0.1mm×幅660cm×長4m×2枚)
(腰:0.1mm×150cm×55m×2枚)(裾:厚0.1mm×75cm×100m×2枚)

慣行資材

ハウス③ 天井:Eコート(0.1厚) ※展張3年目
サイド・裾・妻面:ゴリラ(0.1厚)

ハウス立地図①~⑥ 麦畑

栽培方法

収穫日
慣行区:4月上旬
試験区:9月末日

【栽植密度】
畝幅:180cm
株間:30cm

資材使用期間

2月22日~11月15日

試験区面積

423.5㎡

試験結果

- (1)作業性について(慣行品との比較)**
展張作業については、慣行品と同じように行えた。
- (2)作物の生育状況または、収穫への影響**
生育(丈や色)及び収穫量はほぼ同等に推移した。
- (3)資材の強度・耐久性・崩壊性について**
展張中は破けることはなく、問題なく使用できた。
- (4)促成・抑制効果について**
斑点病の発生率は、慣行品は「66.5%・57.8%」の結果に対し、試験品は「47.3%・40.1%」となった。
※調査方法:ハウス中央の風通しの悪い場所の慣行品10株×2と試験品10株×2を調査対象とし、発生率を判定。(調査日2016年10月26日)

発病程度指数	率 (%)
0:病斑無	0
0.5:病斑面積	1~12.5
1:病斑面積	12.6~25
2:病斑面積	26~50
3:病斑面積	51~75
4:病斑面積	76以上

- (5)保温効果について**
ハウス内の温度管理は試験品、慣行品とも同様に行っていたため、ほぼ同等で推移した。
※慣行フィルムが3年目であることを考慮すると、試験フィルムのほうが気温の立ち上がりが良いが、温度計を設置していないので、正確な情報は無い。
- (6)雑草・病害虫の発生について**
ネギアザミウマ類の抑制効果については、防除・妻面ネット・反射材設置などハウス内外の管理が適正に行われていたことや、今年のスリップス発生が低い為、効果は判然としなかった。

モニター感想

- 試験品のハウスが顕著に病害虫の発生が少なかったため、慣行品と比較して防除回数を1回減らすことができた。防除回数の減少は、コスト低減と労力軽減につながった。
- 試験品は素材が柔軟で展張・下ろす作業が容易にできた。
- 試験ハウス以外のハウスフィルムは紫外線カットフィルムではないため、今後フィルム更新の際は、紫外線カットフィルムにしていく予定で考えている。

JA担当者の感想(網走農業改良センター美幌支所 小澤氏)

- 当初目標としていたアザミウマ類の軽減については、生産者がタイムリーに薬剤防除することで、試験区、慣行区に大きな差は生じなかった。
- 一方、斑点病の発生度は試験素材が明らかに少なく、翌年も収量に影響しないと思われる。

今後の使用について

継続して使用したい。
今回は斑点病の効果のみの結果となり、スリップス抑制効果を確認することができなかったが、今後も継続して使用し、総合的防除を行いコスト低減と労力軽減につなげていきたい。

その他

毎年、隣接する麦畑よりハウス内ネギアザミウマ類が発生している状況が昨年まで続いていた。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 調光フィルム

4 クリンテート

5 機能性マルチ

6 育苗資材

7 不織布

8 その他